長大人

の女疱瘡わづらひて、かたち大きにみにくゝなり、ことさら一眼しひ、かたゝはしめのうるはしきに引きかへ、さながら鬼のごとくなり、おやなりけるものうとましくおもひけるに、榮長卿すこしもくやめる氣なくこゝろよくとり入れて、妾にしやしなひ、一生をおくらしめぬ、見にくしとても、丈夫の一言變ずべきにあらずといはれしとぞ、たのもしとやいふべき、

〔日本書紀十四雄略〕四年二月、天皇射獵於葛城山、忽見長人來望丹谷、面貌容儀、相似天皇、天皇知是神、猶故問曰、何處公也、長人對曰、現人之神、先稱玉諱、然後應道、天皇答曰、朕是幼武尊也、長人次稱曰、僕是一事主神也、

〔常陸風土記那賀郡〕平津驛家、西一二里有岡、名曰大櫛、上者有人、體極長大、身居丘壟之上、採蘆食之、其所食貝、積聚成岡、時人取大朽之義、今謂大櫛之岡、其大人踐跡、長卅餘步、廣廿餘步、尿穴跡、可廿餘步許、

〔播磨風土記〕託賀郡

右所以名託賀者、昔在大人常勾行也、自南海到北海、自東巡行之時、到來此土云、他土卑者常勾伏而行之、此土高者申而行之高哉、故曰託賀郡、其蹤迹處數々成沼、

〔續日本紀四十桓武〕延曆八年九月戊午、是日右大臣從二位兼中衛大將藤原朝臣是公薨、略中爲人長大、兼有威容、

〔田村麻呂傳記〕大將軍坂上田村麻呂身長五尺八寸、胸厚一尺二寸、

〔內裏式中〕十二月大儺式略中

方相一人取大舍人長大者爲之

〔文德實錄六〕齊衡元年十二月辛巳、武藏國貢長人一枚、以備駈儺、

〔日本紀略九條〕永延元年七月廿六日丁亥、相撲內取、是日也、美濃國百姓數百人、於陽明門、申請守源